

中国の高校における新疆クラスの生徒募集に関する考察

李 彦 及

(2012年10月2日受理)

A Study on Xinjiang Student Enrollment in High Schools in China

Yanji Li

Abstract: In September 2000, the Ministry of Education established so-called Xinjiang classes at 13 senior high schools in 12 cities including Beijing, Shanghai and Tianjin. One thousand students from Xinjiang Uyghur Autonomus District were enrolled. In 2012, these figures increased to 8030 students at 85 senior high schools in 44 cities respectively. The students consist of 10% of Han Chinese peasants and farmers' children and more than 80% are ethnic minority peasants and farmers' children. Number of minority students admitted to the Xingjiang class is distributed by the percentage of each minority group in Xinjiang Province. Also, students must have good examination results in order to be accepted into the senior high school classes. This paper will discuss the requirements for students admitted to the Xinjiang classes, i.e. the students' academic ability, the rationales behind the percentage of minority students in schools, the geographic distribution of students and the types of schools. This paper will also deal with the objectives, requirements, and methods of recruiting students in order to clarify the government's policy intention on fostering the human resources of ethnic minorities and to analyze how it works out in the Xinjiang classes.

Key words: ethnic minority education, students' enrollment, Uyghur, Xinjiang, China

キーワード：少数民族教育、生徒募集、ウイグル、新疆、中国

1. はじめに

東部沿海地域と西部内陸地域の経済格差を解消することを目的とした国家プロジェクトである「西部大開発」のために、中国政府は、1999年に「少数民族地区の人材養成活動をいっそう強化することに関する意見の通知」（原語は「關於進一步加強少数民族地区人材培養工作意見的通知」）を必要な人材養成の一環とし

本論文は、課程博士候補論文を構成する論文の一部として、以下の審査委員により審査を受けた。

審査委員：大塚 豊（主任指導教員）、古賀一博、小原友行

て出した。同通知に基づいて、教育部は2000年9月、北京、上海、天津、南京、杭州、広州、深圳、大連、青島、寧波、蘇州、無錫の12都市の高校に「新疆クラス」と呼ばれる特別クラスを設置した。同クラスは新疆ウイグル自治区（以下、新疆と略記）の少数民族生徒を対象として、彼らを新疆以外の相対的に教育の発展した地区で教育することを目的とした計画である。同計画は、初年度には、新疆から1000人の生徒を募集し、その後、2002年以降、量的拡大が図られた¹⁾。具体的な数値を示したものが、表1である。

新疆クラスの生徒募集に関しては、教育部が2000年6月に出した「中央部・沿海地域における高校の新疆クラスの管理方法」（原語は「内地新疆高中班管理辦

表1 新疆クラスの規模拡大

年	募集人数	設置する学校数	都市数
2000年	1000人	13校	12都市
2001年	1000人	13校	12都市
2002年	1540人	15校	12都市
2003年	1540人	15校	12都市
2004年	1540人	15校	12都市
2005年	3075人	35校	25都市
2006年	3990人	45校	26都市
2007年	5000人	50校	28都市
2008年	5412人	50校	28都市
2009年	5500人	52校	29都市
2010年	6378人	66校	36都市
2011年	7090人	76校	40都市
2012年	8030人	85校	44都市

出典) 新疆维吾尔自治区地方志编纂委员会『新疆年鉴2001～2010』, および新疆班ホームページ <http://www.xjban.com> より筆者作成

法(試行)²⁾、以下は「管理方法」と略記)の第11条において、「新疆クラスの生徒募集は、教育部の指導と監督の下で、新疆ウイグル自治区教育厅が担当する。…毎年入学させる新入生のうち、少数民族出身の農民・牧畜民が募集定員の80%以上を占めるものとする。それとともに、10%の漢族の農民・牧畜民を募集しなければならない。生徒の質を保つという前提の下、募集する少数民族生徒の比率は新疆において、各少数民族の総人口に対する比率に相当するものでなければならない」と定められている³⁾。

上述したように、少数民族人材の養成を主目的とする新疆クラスであるにもかかわらず、漢族も募集の対象となっていることは注目に値する。また、募集される少数民族生徒については、彼らの学力面での一定の水準、民族の比率、農民・遊牧民の比率を保つことが求められている。複雑な民族状況の中で、新疆クラスは、これら4つの観点に配慮しつつ、所定の計画どおりに生徒募集が行われてきたかの可否は検討に値しよう。

ところで、新疆には、ウイグル族以外にも多くの民族が居住しており、その数は53民族にも及んでいる。そのうち、人口が最も多い民族は、総人口の46.42%を占めるウイグル族である。それに次いで、漢族は39%であり、2番目となる⁴⁾。ウルムチ、カラマイのような都市部では、漢族が総人口の大半を占めている。ウイグル族は主に新疆南部の貧困地域に集中し、農耕生活を行っている。また、主要民族の1つであるカザフ族は、主に新疆北部の草原に分布し、遊牧生活を送る者が多い。

このように、複雑な民族構成の地域である新疆においては、幼稚園から高校に至るまで少数民族が通う学校については、民族語で授業する学校(以下は「民族学校」と呼ぶ)、物理・化学などの一部の授業のみを漢語で教授する学校(以下は「二言語学校」と呼ぶ)、そして、すべて漢語で教育される漢族学校の3種類がある。新疆クラスへ進学するには、これら3種類の学校の間で、いかなる差異が見られるのかという点も検討してみる必要がある。

本稿では、新疆クラスの生徒募集の対象、条件、方法に着目し、現地調査の結果および関連資料の分析を通じて、中国における少数民族人材の養成に関する政策意図とその実態を解明することを目的としている。

2, 生徒募集の対象

新疆クラスの生徒募集に関して、まず、同クラスで学ぶことの利点をおさえておく必要がある。

第一に、生徒の学費が政府負担であることが挙げられる。農民・牧畜民の子弟が優先的に採用されるために、生徒が負担するのは毎年の生活費、医療費などの900人民元(約72,000円)のみである。さらに、貧困家庭に対しては、この経費についても、減免措置がとられている。また、新疆において二学期制をとっている普通高校の場合、都市部・町では、一学期の学費が600元であり、農村では学期ごとに400元が必要である⁵⁾。つまり、年間の学費だけで800元から1,200元と考えられるが、この金額には食費や宿舍費などが含まれていない。こうした金額から考えれば、新疆クラスの年間の学費・食費・宿泊費などのすべて含んだ900元は、たとえ免除されなくても、保護者にとっては、比較的軽い経済的負担と言えよう。

第二に、大学進学に関して、特別な合格基準が設けられていることが挙げられる。新疆クラスの生徒が、学校所在地の大学入学試験、各地の大学に進学する場合、その合否判定は当該地の一般受験生とは異なり、新疆クラスの卒業生のみで合否判定が行われる仕組みとなっている。そのため、例年の進学率は90%以上であり、他の高校の進学率よりはるかに高い。例えば、2009年の新疆における大学進学率(専科を含む)が64%であったことに対して、同年の新疆クラスの大学進学率(専科を含む)は、96.1%に達していた⁶⁾。つまり、新疆クラスに在籍する者のほとんどが、大学に合格することができると言えよう。

新疆クラスでは、上述したように、一定数の新疆出身の漢族も募集しているが、こうした2つの利点は、新疆の少数民族だけでなく、漢族で新疆クラスに入る

者に対しても適用される。現在の中国では、少数民族人材の養成のために設置された教育機関においても、漢族を見るのが珍しくない。例えば、少数民族のための高等教育機関である民族学院では、多数の漢族が学習している事実がある⁷⁾。だが、新疆クラスの場合、募集定員の10%を占める漢族は、新疆在住の農民・遊牧民でなければならないと明確な数値目標が規定されているのである。

このように、新疆クラスが漢族を募集することについては、以下の3つの理由があると考えられる。

第一に、新疆では、30の貧困地域を有し⁸⁾、2000年においては、漢族を含めて、住民の年間平均所得は5,817元であった。このことは、全国の平均水準値より463元低く、34の省・自治区・直轄市を有する中国内で第15位となる。だが、従来、農村部と都市部との格差が大きく、農村に住んでいる住民の所得はそれより低く、農村部の所得は、1,618元に過ぎないと指摘されている⁹⁾。漢族に対する募集資格が、農民・遊牧民でなければならないことは、新疆の経済状況において相対的に恵まれない漢族に配慮したものであることは言うまでもない。

第二に、現在、民族構成の複雑な新疆において、総人口比率の約4割を占める漢族は、決して少数派とは言えない。そのため、上述した「中央部・沿海地域における高校の新疆クラスを管理する方法」第10条においては、「…漢族が少数民族と離れず、少数民族が漢族と離れず、各少数民族の間でもお互いに離れない」という民族団結の教育を強めなければならない」と規定されている¹⁰⁾。漢族を新疆クラスで募集した理由は、こうした民族団結のスローガンを表現することが目的である。

第三に、中国では、少数民族に対して、大学進学の際、漢族より合格点数を低くすることや、漢族と同じ条件であれば、優先的に採用するなど、いわゆる優遇策がとられている。このことは、漢族より少数民族の学力が、相対的に低いという現状に対する配慮ではあるが、漢族の立場から見れば、教育機会が明らかに不平等であるといえる。それによって、漢族から不満が表明されることには容易に想像がつくだろう。例えば、サチーナによる2008年8月の「中国の少数民族～保護策あるが「抑圧」との批判も」という報道では、少数民族に対して、「なぜ、少数民族というだけで優遇されるのか」という漢族による不満の声があらわれている¹¹⁾。こうした民族感情によって、新疆における民族団結に不都合を生じないように、漢族にも配慮した募集を行ったと考えられる。

3、生徒募集の条件

3.1 応募資格

新疆クラスへの応募条件に関して、教育部が2000年1月に出した「中央部・沿海地域の関係都市が高校に新疆クラスを開設することに関する実施意見」（原語は「關於内地有関城市開辦新疆高中文班的實施意見」）には、以下の5項目が定められている。

- 1、本人が自主的に志願したものであること、親が承認済みであること。
- 2、中学校の新卒者であること。
- 3、人品・徳性及び成績が優秀であり、漢語成績が良好であること、かつ一定の民族語の能力を持つこと。
- 4、身体が健康で、伝染病を有していないこと。
- 5、国家需要に従うこと¹²⁾。

冒頭で述べた「中央部・沿海地域における高校の新疆クラスを管理する方法」に基づき、新疆クラスの生徒募集と生徒に対する円滑な生活指導のため、2003年10月に「自治区における中央部・沿海地域の新疆生徒工作事務局」（原語は「自治区内地新疆学生工作辦公室」）という部門が設置された。自治区教育庁の管轄の下、生徒募集や入学許可などを担当する機関である。同機関が示した応募資格では、応募者は以下の6項目の条件のすべては当てはまる必要がある。すなわち、

- 1、思想や人品・徳性が良く、4つの基本原則¹³⁾を擁護し、祖国を愛し、民族団結の自覚を保ち、社会の規範や法律を遵守すること。
- 2、応募者は必ず17歳未満の新卒者であること。
- 3、応募者は中学校の課程を修了していること。
- 4、中学在籍期間中、処分されたことがないこと。
- 5、身体が健康で、伝染病を有していないこと。
- 6、応募者の戸籍が指定地域に該当しており、かつ応募する年から4年以上当該地に住んでいること¹⁴⁾。

上述の6つの条件のうち、第1項は応募者の思想に関する条件である。これについての判断基準はいささか曖昧ではあるが、新疆クラスに応募する前、「政治審査書」、「健康診断書」、「受験生の同意書」、「親の承認書」、「貧困等級の認定書」、「出身校の種類と民族の認定書」が必要な提出書類として求められる。このうち、思想の判断基準となるのは、在籍した学校の共産党支部によって記入された「政治審査書」である。学

校は、応募者の「政治審査書」の合否の判定を行ったうえで、学校所在地の教育局と公安部門に提出する。教育局と公安部門による確認を受けた後、同部門から更に上級の教育行政部門へ回され、この上級部門が、最終的な認定を行うという重層的なプロセスがとられる。なお、筆者による2011年3月の現地調査では、以下の5つの条件のいずれかに当てはまる者は審査で不合格となることが明らかになった。

1. 4つの基本原則に反対し、祖国の統一や民族の団結を破壊する言動のあった者。
2. 宗教に関わる活動に参加した者。
3. 法律を破り、治安管理处によって処分され、かつ事態が重大で、その質が深刻である者。
4. 学校の規律や規定に違反した者。
5. 直系家族が公安局により重大な政治問題があると認定された者。

つまり、中国人としてのアイデンティティを持ち、中国共産党による指導の認め、無神論を主張することが合格の前提条件とされるのである。

3.2 入試科目の「足切り点」

上述した教育部による条件と自治区教育厅による資格要件を比較してみると、後者の場合、民族語に関する要求が見られない。それは、新疆クラスの応募者に対する入試における「足切り点」の条件を反映している。

新疆クラスでは、特別な入試問題を実施するわけではなく、合否判定においては、新疆で実施される高校進学のための統一入試の点数が参照される。新疆ウイグル自治区の高校の入試科目は、国語（少数民族の場合は民族語）、数学、英語（少数民族の場合は漢語）、政治・歴史、物理・化学の5科目である。1科目は150点満点であり、5科目の総点は750点である。先に述べたように、新疆の少数民族は出身校によって、民族学校、二言語学校、漢族学校に分かれる。漢族学校では、国語や英語の言語科目については規定通りであるが、民族学校と二言語学校の場合、生徒は国語の代わりに民族語の試験が課され、漢語が英語に相当する受験科目として課されている。

生徒の出身校種別の募集定員に配慮し、応募者に対して、いわゆる「足切り点」が定められた。表2に示すように、2007年では、民族学校と二言語学校の場合、漢語の点数が78点以下、数学の点数が50点以下の者が不合格となった。漢族学校の場合、英語の点数が42点以下、数学が60点以下であれば不合格と定められてい

表2 2007年各応募者に対する「足切り点」

出身校や民族	数学	言語科目
民族学校	50点	78点（漢語）
二言語学校	50点	78点（漢語）
漢族学校	60点	42点（英語）
漢語を母語とする民族	62点	50点（英語）

出典) 新疆維吾爾自治区内地新疆學生工作『内地新疆高中班教育読本』中国青年出版社, 2007年, 34頁より筆者作成

る。漢族を含めて、漢語を母語とする民族に対する最低点数は、英語は50点以上、数学は62点以上である。

筆者による現地での聞き取り調査の結果をまとめた表3に示すように、2011年の規定は、2007年と比較してみると、両者には変化が多少見られるが、それほど大きな差はない。しかし、要求された入試の言語科目は注目に値する。つまり、少数民族の生徒については、いずれも英語ないし漢語が重視されており、民族語に関する基準が規定されていないことがわかる。このことは、上述した教育部による「一定の民族語の能力を持つこと」は、現実の生徒募集の条件としてはほぼ反映されず、建前に過ぎないということである。

表3 2011年各応募者に対する「足切り点」

出身校や民族	総点	数学	言語科目
民族学校	450点	52点	78点（漢語）
二言語学校	420点	52点	78点（漢語）
漢族学校	410点	62点	50点（英語）
漢語を母語とする民族	560点	67点	55点（英語）

出典) 新疆維吾爾自治区内地新疆學生工作辦公室編『2011年内地新疆高中班 新疆区内初中班 区内高中班招生考試工作手冊』, 2011年, 29頁より筆者作成

新疆クラスにおいては、生徒の出身民族はさまざまである。加えて、学校所在地の大学入試科目を考慮して、学校側が民族語科目を開講していない。こうして、民族学校や二言語学校に通う少数民族に対して、民族語学習に対する要求がなく、漢語での高得点が要求されることは、今後、民族語科目を開講しない新疆クラスで少数民族生徒が学習しようと思えば、漢語学習にかなりの比重をかけざるを得ないことを示唆している。しかし、民族語と漢語を自在に操れる人材養成をあらわす「民漢兼通」という少数民族教育の本来の理念から見ると、民族語に対する重要度は漢語に比べて、下がってきていると見ることもできる。

4, 生徒募集の方法

先述した「管理方法」の第11条の規定にしたがい、新疆クラスでの生徒募集での各民族別割合は、基本的に自治区内の少数民族の人口比率に合わせるようになっていて。例えば、2000年時点では、入学許可された1,000人のうち、ウイグル族が682人であり、100人の漢族の募集数を除けば、その数は少数民族生徒全体の75.8%を占めていた。同期に募集されたカザフ族は107人(11.9%)であり、回族は62人(6.9%)であった¹⁵⁾。同年の新疆ウイグル自治区の少数民族人口の割合は、ウイグル族が75.3%、カザフ族が11.7%、回族が7.4%となる¹⁶⁾。したがって、生徒募集数と民族別数の比率には多少の差があっても、ほぼ一致しているといえよう。

加えて、「少数民族出身の農民・牧畜民は募集定員の80%以上を占めるものとする」という目標が定められている。そのために、新疆の各少数民族それぞれの分布や地域による学力差を考慮し、新疆クラスの募集は、新疆全地域の「統一募集」と貧しい少数民族の多い地域に対する「計画募集」の2種類に分けられている。そのうち、「計画募集」は、より広く実施されている。例えば、2007年の教育部の計画によると、募集定員総数のうち、地域を限定して「計画募集」される者は65%であり、新疆ウイグル自治区全体を範囲とする「統一募集」の定員は、35%と定められた。「計画募集」では、少数民族が多い貧困地域を考慮した上で、新疆南部のカシュガル、ホータン、クズリス・キルギス自治州、アクス4地域を主な募集対象とすることになった¹⁷⁾。以上の4地域は、貧困者が多い地域といわれ、新疆に住む貧困者の9割以上を占めている¹⁸⁾。また、先述したように、「10%の漢族の農民・牧畜民を募集しなければならない」ことが求められるため、4地域では、漢族の募集数が集中的に多い地域とされている¹⁹⁾。

表4のとおり、新疆ウイグル自治区においては、少数民族が通う民族学校、二言語学校、漢族学校という学校種別により、新疆クラスの募集定員は一定比率の配分が行われるという規定がある。表4から分かるように、民族学校、二言語学校、漢族学校に対する割合の差はそれほど大きくない。しかし、新疆の少数民族の場合、漢族学校に通う者はごくわずかである。例えば、2009年時点では、幼稚園から高校までを通して、漢族学校に通う者は9.9%に過ぎない²⁰⁾。つまり、数少ない漢族学校に通う者に対する募集の比率が大きいと言える。

表4 学校種別に対する募集比率

年	民族学校	二言語学校	漢族学校
2000年	30%	30%	40%
2006年	35%	35%	30%
2007年	30%	35%	35%
2011年	24%	35%	41%

出典) 新疆維吾爾自治區内地新疆學生工作『内地新疆高中班教育讀本』中国青年出版社、2007年、34頁、および筆者の2011年の現地調査情報より筆者作成

新疆クラスに通う生徒は、漢族生徒より各科目の成績が低いのが一般的な現象であるという²¹⁾。また、彼らは出身中学校によって学力の差が見られる²²⁾。一方、漢族学校に通う者は、民族学校と二言語学校の生徒に比べて、漢語を自由に操ることができる。すべての授業を漢語で教える新疆クラスにおいて、漢語学校出身者は適応しやすい。彼らに大きい募集定員の比率を与える理由はこうしたことであろうと考えられる。

ところが、新疆クラスが設置された当初の2000年に提唱されたように、全体の80%が農民・遊牧民の少数民族が占めるようにするという目標に対して、2000年は48%、2006年は62.2%、2007年は63.64%、2008年は68%、2009年は71.7%、2010年は74.4%、2011年は75%²³⁾、2012年は76%²⁴⁾と徐々に上がっているものの、未だ目標に達していない。その原因は明らかではないが、少数民族の割合、各家庭の経済状況、出身地の三者の所定比率の目標達成と、農民・遊牧民の所定比率の目標との調整が難しく、80%に達成できなかったことが考えられる。

一方、漢族が多く占める新疆生産建設兵団(以下、兵団と略記)に対しても、2002年から新疆クラスの生徒募集が行われるようになった²⁵⁾。兵団とは、新免康の訳によれば、「中国共産党の指導下に、漢族を主体とする各民族の軍民が新疆において「屯墾戍辺」の歴史的使命を遂行する社会組織であり、党・政・軍が結合した特殊な政治・経済および半軍事的な社会組織である」という²⁶⁾。こうした兵団を募集対象としたのは、民族団結による考えかもしれない。兵団に関しては、2002年から2005年まで、漢族が35人、少数民族が35人、という70人の定員が配分された。その後、2006年から2007年までは150人²⁷⁾、2010年に200人²⁸⁾、2011年に230人²⁹⁾、2012年に300人³⁰⁾というように、少数民族と漢族の双方が半々を占める割合で、募集人数が増え続けている。

5, 結論

4年の修業年限である新疆クラスでは、民族に関わらず、すべての在籍する生徒に対して、2年目から高校1年に入学し、現地の高校生と同じように授業を受ける形となっている。このことから、最初の一年、全員が「予科」で国語（漢語文）を中心に、文・理系の科目及び英語などの補習授業を受ける。もちろん、こうした漢語教育は、少数民族にとっては、民族語で授業を受け、漢語を1つの外国語に相当する科目として学習するよりも効果が高い。一方、中央部・沿海地域の生徒との学力差がそれほど大きくない新疆出身の漢族にとっては³¹⁾、これらの科目の補習が必要ではない。この側面から分かるように、新疆クラスは、あくまでも少数民族を専門的な教育対象とする出発点である。漢族を一定の募集対象とする理由は、民族団結に有利という考えによる可能性が高いと考えられる。

中国では、中学校から高校に進学する際、合否は入試の成績によることが一般的である。すなわち、各高校によって公表された一定の合格ラインがあり、いずれかの高校に進学できるかは、進学のための統一試験での点数による。新疆の場合でも、一般の高校に進学するのが同じである。ところが、新疆クラスは、生徒の合否判定に関わるのは、入試成績だけでなく、民族、各家庭の経済状況、出身地、出身校種別も合否を判断する重要なポイントとなり、それらの違いによって合否判定の基準が異なるのである。特に、新疆クラスに進学する必要な条件として、政治審査が課せられる点は重要である。つまり、新疆クラスは、一般の高校と比べ、教育の政治性がより強いといえる。

以上のように、新疆クラスの生徒募集の対象・条件の実態から、新疆クラスにおける人材選抜理念の本質が見えてきたと言える。それは、民族団結を増進し、祖国の統一を守り、かつマルクス主義に従う者が理想的であるということである。新疆クラスを設置する目的はまさにこの点にある。つまり、単に少数民族に対する漢語教育を施すというだけでなく、民族の統一を通じて、国の保全をはかる装置として、国の安全のために設置された教育の場であると考えられるのである。

【注】

1 「全国新增10所新疆内高班辦班學校」新疆班ホームページ, <http://www.xjban.com/ngb/2011/43161.htm>, 2011年8月閲覧。

- 2 中国語の「内地」とは、少数民族自治区以外の中央部・沿海地域のことを指しているため、ここでは、中央部・沿海地域と訳す。
- 3 「内地新疆高中班管理辦法（試行）」（2000年6月5日教育部印発）『中華人民共和国重要教育文献1998～2002』海南出版社, 2003年, 619頁。
- 4 新疆維吾爾自治区地方志編纂委員会『新疆年鑑2010』新疆年鑑社, 2010年, 1頁。
- 5 「新疆維吾爾自治区保留的教育收費項目和收費標準彙總表」, 新疆教育信息网, <http://www.xjedu.gov.cn/ceshipindao/2011/45416.htm>, 2012年4月閲覧。
- 6 新疆維吾爾自治区地方志編纂委員会, 前掲書, 336, 338頁。
- 7 小川佳万『社会主義中国における少数民族教育—「民族平等」理念の展開』東信堂, 2001年, 73頁。
- 8 王寧「新疆貧困状況分析及扶貧模式的比較和選択」『新疆研究文論選』（第二輯）民族出版社, 2005年, 67頁。
- 9 新疆維吾爾自治区地方志編纂委員会『新疆年鑑2001』新疆年鑑社, 2001年, 5頁。
- 10 「内地新疆高中班管理辦法（試行）」（2000年6月5日教育部印発）, 前掲書, 619頁。
- 11 「中国の少数民族～保護策あるが「抑圧」との批判も」サチーナによる社会ニュース, http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?y=2008&d=0815&f=keyword_0815_002.shtml, 2012年7月閲覧
- 12 「關於内地有關城市開辦新疆高中班的實施意見」（2000年1月24日教育部印発）『中華人民共和国重要教育文献1998～2002』海南出版社, 2003年, 504頁。
- 13 1979年に鄧小平によって提唱されたものである。4つの原則の内容とは、社会主義の道、プロレタリアート独裁、中国共産党の指導、マルクス・レーニン主義・毛沢東思想のことである。
- 14 新疆維吾爾自治区内地新疆学生工作『内地新疆高中班教育讀本』中国青年出版社, 2007年, 25～26頁。
- 15 筆者が2011年3月, 訪問時に得た現地情報である。
- 16 新疆維吾爾自治区地方志編纂委員会, 前掲書, 10頁。
- 17 新疆維吾爾自治区内地新疆学生工作, 前掲書, 34頁。
- 18 王寧, 前掲書, 67頁。
- 19 新疆維吾爾自治区内地新疆学生工作, 前掲書, 27頁。
- 20 新疆維吾爾自治区地方志編纂委員会, 前掲書, 337頁。
- 21 祝錦全「值得關注的兩個教育方面—教師主導性与

- 学生主体性浅談』『成長在同一片天空下』北京少年儿童出版社，2007年，43頁。
- 22 金斌「基本插入模式的課程対策」『成長在同一片天空下』北京少年儿童出版社，2007年，139～140頁。
- 23 「全国新增10所新疆内高班辦班学校」前掲サイト，<http://www.xjban.com/ngb/2011/43161.htm>，2011年8月閲覧。
- 24 「2012年内地新疆高中班招生錄取工作順利結束」新疆班ホームページ，<http://www.xjban.com/xwzx/zhxw/2012/53474.htm>，2012年8月閲覧。
- 25 「教育部，国家計委，財政部關於扩大内地新疆高中班招生規模的通知」（2002年4月19日）『中華人民共和国重要教育文献1998～2002』海南出版社，2003年，619頁。
- 26 新免康「中華人民共和国における新疆への漢族の移住とウイグル人の文化」『民族の移動と文化の動態—中国周縁地域の歴史と現在』風響社，2003年，481頁。
- 27 新疆維吾爾自治区内地新疆学生工作，前掲書，27頁。
- 28 「2010年内地新疆高中班招生錄取工作順利結束」中国教育新聞網，http://jyb.cn/basc/xw/201008/t20100809_380865.html，2010年8月閲覧。
- 29 「全国新增10所新疆内高班辦班学校」前掲サイト，<http://www.xjban.com/ngb/2011/43161.htm>，2011年8月閲覧。
- 30 「2012年内地新疆高中班招生錄取工作順利結束」前掲サイト，<http://www.xjban.com/xwzx/zhxw/2012/53474.htm>，2012年8月閲覧。
- 31 王公達，鞠文雁『H S K与新疆民族教育』新疆大学出版社，1996年，42～43頁。